

大阪府立成人病センター整備基本構想（概要）

～『がんの征圧』を使命とし、『がん医療日本一』を目指す～

- I トップレベルの診療内容 ～高度先進医療—特定機能病院として～
—がん5年生存率 全国トップ
- II がん診療の拠点化 ～都道府県がん診療連携拠点病院 司令塔として～
—※がん治療カバー率UP（大阪府内）
・成人病C 8.6% → 9.5%
・府内がん拠点病院(38病院) 66.2% → 75.0%
※カバー率：府内のがん患者のうち治療した患者の割合
- III 患者にやさしい医療の提供
—患者満足度のUP
・患者満足度調査における病院満足度のUP

1 建替えの必要性

○がんの基幹病院として、早期建替えによりがん医療の進展に対応した機能強化を図る。

- ### 2 新センターの果たすべき役割
- 難治性がんを中心とする高度先進的ながん医療の充実
・放射線療法、化学療法等を活用した集学的な診療機能の強化 など
 - 医療の進歩、患者の高齢化に対応した全人的医療の推進
・緩和医療、リハビリテーション等の充実による患者QOLの向上 など
 - 新しい診断・治療法の開発
・治験・臨床研究、創薬研究の推進体制の充実 など
 - 人材育成・技術支援機能の強化による府域のがん医療水準の均てん化
・教育研修センターの拡充、チーム医療の強化 など
 - がん対策の立案・評価、府医療施策への提言、情報提供機能の充実
 - がん患者や家族に対する支援機能の強化
・療養環境の整備、がん情報の提供・ネットワークの構築 など
 - 患者アメニティの充実

長期収支推計

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H38	H56
資金収支（ベース）	5.3	5.8	5.0	4.6	8.0	8.9	6.4	6.4
成人病C整備費償還額	—	—	3.4	3.4	17.1	16.8	9.9	5.0
成人病C現敷地等売却収入	—	—	—	—	—	96.0	—	—
資金収支	5.3	5.8	1.6	1.3	※0.0 (△9.1)	88.1	※0.0 (△3.5)	1.4

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H38	H56
資金収支（ベース）	6.7	6.9	6.8	6.6	10.2	11.4	11.1	11.1
成人病C整備費償還額	—	—	3.4	3.4	17.1	16.8	9.9	5.0
成人病C現敷地等売却収入	—	—	—	—	—	96.0	—	—
資金収支	6.7	6.9	3.4	3.2	※0.0 (△6.9)	90.5	1.2	6.1

※整備費の償還については現敷地売却収入等を充当することで収支均衡。

整備にあたっての基本的な考え方

- 建設コストを抑え、最新の医療機器を積極的に導入
- 民間事業者のノウハウを最大限活用し、効率的な施設を実現



3 新センターの整備内容等

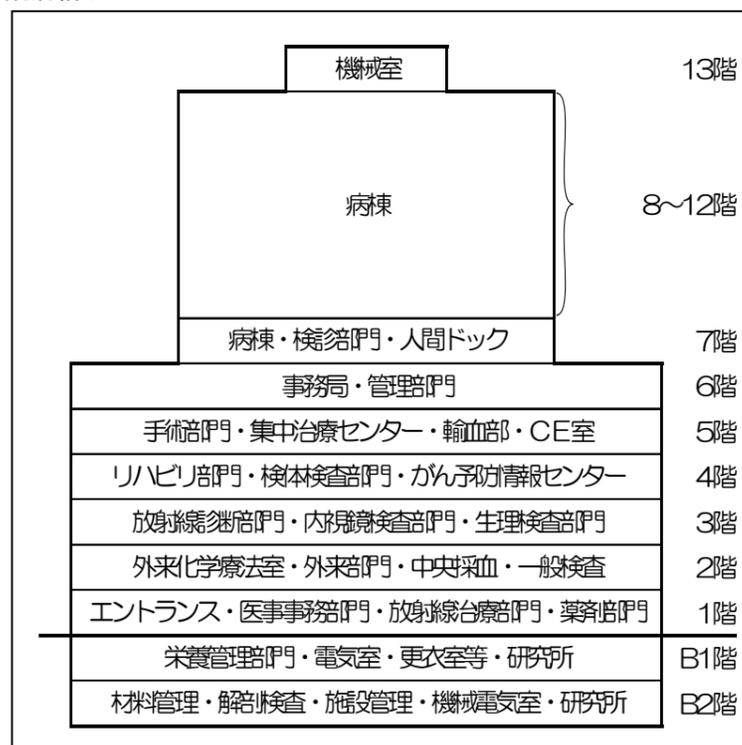
- 病床数 500床
- 延床面積 約65,000㎡
(研究所[5,000㎡]を含む)
- 敷地面積 約12,000㎡
- 整備費 約340億円(建設単価 40.5万円/㎡)
(医療機器約50億円を含む)
- 整備手法 PFI手法を前提に検討
(※1VFM ※2BTO15年 7.3%)

※1 VFM 公共事業を従来手法で実施した場合とPFI手法で実施した場合の費用の差
※2 BTO 民間事業者が建設後、建物の所有権を公共に移転し、一定期間運営を行う(Build・Transfer・Operate)

<部門別延床面積比較> (単位：㎡)

	現病院	新病院	増減要因
外来部門	2,500	4,300	外来化学療法部門の拡充
病棟部門	14,000	19,000	個室の増加
診療部門	9,000	13,800	放射線診療部門の拡充
その他	32,000	27,900	管理部門等の精査

<階層構成イメージ>



4 機能の強化イメージ

<施設>

- ・外来化学療法室の増加（20床→40床程度）
- ・手術室の増室（10室→12室程度）
- ・ICUの増床（6床→8床程度）
- ・個室率の増加（30%程度→50%程度）

<医療機器>

- ・リニアックの増加（2台→5台程度）
- ・CT・MRIの増加
- ・最先端医療機器（重粒子線・陽子線治療機器、BNCT等）の導入検討

5 整備スケジュール

項目・内容	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
① 実施方針の公表	●					
② 入札公告		●				
③ 民間事業者との契約締結			●			
④ 各種協議、設計・施工期間			→			
⑤ 竣工・引渡し					●	
⑥ 開院						●